

速報

西銘岳におけるジャワマンゲース *Herpestes javanicus* の自動撮影記録^{*1}小高信彦^{*2} ・ 外山雅大^{*3} ・ 高原建二^{*4} ・ 佐藤大樹^{*2}

キーワード：ジャワマンゲース，西銘岳，外来種，やんばる，自動撮影装置

I. はじめに

ジャワマンゲース *Herpestes javanicus* (以下マンゲース) は食肉目マンゲース科の哺乳類で，中東から，東南アジア，中国南部，ジャワと広く自然分布する (1)。沖縄島ではネズミ類やハブ *Trimeresurus flavoviridis* の被害対策のため1910年に人為的に導入された外来種である (2)。近年，マンゲースの分布域は沖縄島全域に拡大しつつあり，固有種を含む多くの在来種を捕食していることが確認され，希少野生生物が多く生息する沖縄島北部 (やんばる地域) における生物多様性への影響が指摘されている (3, 4, 5, 6, 7)。マンゲースによる在来種への影響を重視した沖縄県は2000年10月から，環境省は2002年1月から沖縄島北部におけるマンゲースの捕獲事業を開始した。さらに，マンゲースは2005年1月に特定外来種に指定され，環境省は沖縄県と協力しながら沖縄島北部地域 (国頭村，大宜味村及び東村) における同種の完全排除及び再侵入の防止を目標とする防除実施計画に基づいた捕獲作業を行っている。今回，森林施業がやんばる地域の生物多様性に与える影響を明らかにする研究の一環として，地上徘徊性や地上付近を利用する動物相を明らかにすることを目的に自動撮影装置を用いた調査を行った。その結果，沖縄県国頭村に位置する西銘岳に設置した自動撮影装置に，マンゲースが記録されたので報告する。

II. 材料および方法

2006年2月19日から7月5日まで，沖縄県国頭村に位置する西銘岳山頂から南西約900mの常緑広葉樹林内 (北緯26° 48′，東経128° 15′，標高350m) に1台の自動撮影装置を設置した (図1)。周辺には，スタジイ *Castanopsis sieboldii* が優占する常緑広葉樹の天然林や二次林，リュウキュウマツ *Pinus luchuensis* の植林地などが分布する。自動撮影装置はコンパクトカメラ内に赤外線感知型センサーが内蔵された市販品 (Field note Ia, 麻里布商

事，山口) を用いた。撮影に当たっては，林床植生が疎らな場所を選び，高さ約1m，俯角約45度に設定し，誘因用の餌などは使用しなかった。自動撮影装置の点検は基本的に2週間に1回の頻度で行い，フィルム回収後は，写真の撮影日時，確認種を記録した。

III. 結果及び考察

5月17日5時50分から51分の間に連続して3枚の写真に，それぞれ一個体のマンゲースが撮影された。画像からの個体識別はできなかったが，マンゲースの撮影位置と撮影間隔から，同一個体が連続して3回撮影されたものと考えられた。

また，この調査地点では，フィルム切れにより装置が作動しなかった期間を除く129.9日間の調査期間中に，鳥類と哺乳類が9種 (鳥類7種，哺乳類2種)，40枚 (鳥類33枚，哺乳類7枚) 撮影された (表1)。これらの中には環境省レッドリストの掲載種であるノグチゲラ *Sapheopipo noguchii*，ヤンバルクイナ *Gallirallus okinawae*，ケナガネズミ *Diplothrix legata*，ホントウアカヒゲ *Erithacus komadori namiyei*，オオコノハズク *Otus semitorques* が含まれ，同地域が希少野生生物の重要な生

表-1. 2006年2月19日から7月5日まで西銘岳に設置した自動撮影装置で撮影された動物種

種名	撮影枚数	種の保存法に		レッドリスト	
		基づく指定	基づく指定	環境省	沖縄県
ノグチゲラ	3	国内希少種	特別天然記念物	絶滅危惧 IA 類	絶滅危惧 IA 類
ヤンバルクイナ	14	国内希少種	天然記念物	絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧 IB 類
ホントウアカヒゲ	2	国内希少種	天然記念物	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 IB 類
ケナガネズミ	4		天然記念物	絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧 IA 類
オオコノハズク	1			絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類
リュウキュウイノシシ	1				情報不足
ヒヨドリ	2				
シロハラ	10				
ジャワマンゲース	3				

国内希少種：国内希少野生動物種

*1 Kotaka, N., Toyama, M., Takehara, K. and Sato, H. : A record of Java mongoose *Herpestes javanicus*, by camera trapping on Mt. Nishime, northern part of Yambaru, in Okinawa prefecture, Japan

*2 森林総合研究所九州支所 Kyushu Res. Center, For. & For. Prod. Res. Inst., Kumamoto 860-0862

*3 北海道大学環境科学院 Grad. Sch. Env. Sci., Hokkaido Univ., Sapporo 060-0809

*4 名護養護学校 Nago Sp. Edu. Sch., Nago 905-0006

息地である事が確認された(8)。特に、3月3日23時00分から23時01分までの3枚と3月19日20時19分に1枚の2回にわたって撮影されたケナガネズミは、沖縄島では数年に1度程度しか目撃情報がなく、個体数は極めて少ないと考えられている種である(9)。

本報告は、希少野生生物の重要な生息地である西銘岳周辺においてもマングースが分布している事を示しており、同種の生息地がやんばる地域最北部の脊梁部まで拡大している可能性を示唆している。国頭村北部(ここでは県道2号線より北側)では、これまでに聞き取り調査などによるマングースの目撃情報が散見されているが、1990年代前半に行われた調査では、確実な分布確認情報は得られていなかった(4, 10)。また、過去に、国頭村北部においても独自にマングースを導入した例が報告されているが、その後の定着は確認されていない(4, 10, 11)。しかし1999年以降、国頭村北部においても糞の拾得(5)や、自動撮影(12)、事業による捕獲(13, 14, 15)などの確実なマングースの確認記録が次々と報告されるようになり、やんばる地域の全域にマングースの影響が及んでいることが示唆される(図1)。

飛翔力をほとんど持たないヤンバルクイナや、土を掘って地中のクモ類やセミの幼虫などを採餌するノグチゲラのように、やんばる地域に生息する在来種の中には地上生活に適した種が多く見られる(16, 17)。このため、沖縄島北部地域へのマングースの侵入は、希少種の個体数や分布域の減少、ひいては絶滅といった形だけではなく、やんばる地域で独自に進化した在来種の採餌行動や営巣場所、生活史の様々な局面に対して影響を与えることが容易に予測される。今後、やんばる地域において在来種の調査研究を行う場合、マングースの生息状況を把握しながらその影響を考慮する必要がある。また、マングースがやんばる地域の生態系に与える影響の実体解明と、同地域からのマングースの完全排除の早期実現が望まれる。

現地調査に当たっては、久高将和氏、我如古創氏に貴重なご助力を頂いた。また、国頭村役場、環境省やんばる野生生物保護センター、沖縄県文化環境部自然保護課、九州森林管理局をはじめ関係機関には貴重な情報を提供して頂くとともに調査に当たっては便宜をはかって頂いた。ここに厚く御礼申し上げます。本研究は、環境省地球環境保全等試験研究費による「沖縄ヤンバルの森林の生物多様性に及ぼす人為の影響の評価とその緩和手法の開発」の一環として実施した。

引用文献

- (1) 米田政明(2005) ジャワマングース。(日本の哺乳類 改訂版。阿部永監修, 206pp, 東海大学出版会, 東京). 91.
- (2) 岸田久吉(1931) 動物学雑誌 43:70-78.
- (3) 当山昌直(1981) Majaa 1:27.
- (4) 川上新(2000) しまたてい 11:10-13.
- (5) 河内紀浩・佐々木健志(2002) 沖縄生物学会誌 40:41-50.
- (6) 小倉剛ほか(2002) 哺乳類科学 41(2):53-62.
- (7) 尾崎清明ほか(2002) 山階鳥研報 34:136-144.
- (8) 環境省(2002) 日本の絶滅の恐れのある野生生物(2)改訂版, 280pp, 自然環境研究センター, 東京.
- (9) 伊澤雅子(2005) ケナガネズミ。(改訂沖縄島の絶滅のおそれのある野生生物 動物版レッドデータおきなわ. 561pp, 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇). 25.
- (10) 阿部慎太郎(1994) チリモス 5:34-43.
- (11) 藤枝則夫(1980) 琉球大学生物学科課題研究論文集5:256-316.
- (12) 九州森林管理局(2006) 平成17年度 やんばる地域希少野生動植物種保護管理対策調査報告書, 56pp.
- (13) 沖縄県自然保護課(2003) 平成14年度 マングース対策事業報告書, 25pp.
- (14) 環境省沖縄奄美地区自然保護事務所(2004) 平成15年度 やんばる地域希少野生生物保全対策事業, 19pp.
- (15) 七里浩志ほか(2006) 野生生物保護学会大会講演要旨集, 19-20.
- (16) Kuroda, N. (1993) J. Yamashina Inst. Ornith 25:12-27.
- (17) Kotaka, et al. (2006) J. Ornith 147(5) Suppl. 1:196.

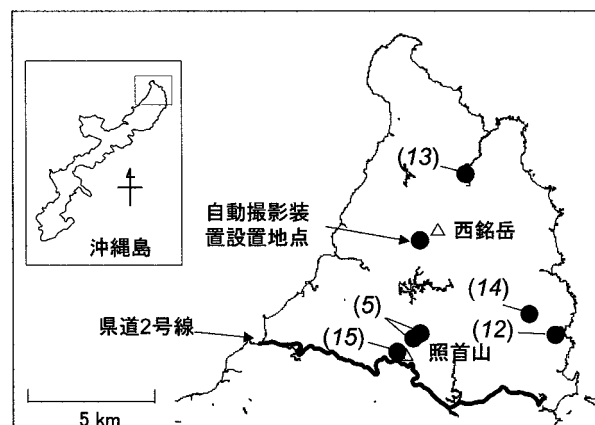


図-1. 国頭村北部における1999年から2006年のマングース確認地点 ●: マングース確認地点(数字は引用文献番号と対応する)

(2006年11月17日受付; 2007年1月5日受理)